

平成19年10月24日

担当課	義務教育課
内線電話	3373
直通電話	894 - 3373
担当者	梶山、高坂

全国学力・学習状況調査の結果について

本年4月24日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表されましたので、本県の状況と今後の取組についてお知らせするとともに、改善に向けての「速報版」を作成しましたので提供します。

全国学力・学習状況調査について

1 調査の概要

(1) 目的

- ア 全国的な義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

(2) 調査の対象学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

(4) 調査日時

平成19年4月24日(火)

(5) 本県の参加状況

参加児童生徒数 29,920人(97.2%)

< 内訳 >

小学校	学校数	参加人数/在籍人数	中学校	学校数	参加人数/在籍人数
公立	381校	14,207/14,459人	公立	198校	14,848/15,438人
国立	1校	113/116人	国立	1校	206/208人
私立	5校	120/122人	私立	12校	426/448人
合計	387校	14,440/14,697人	合計	211校	15,480/16,094人

公立学校に特別支援学校3校を含む。

公立学校に県立中2、特別支援学校3校を含む。

2 調査結果の概要

(1) 本県の結果の状況（公立小中学校、県中・特別支援学校を含む）

校種	教科	A問題（知識）		差	B問題（活用）		差
小学校	国語	全国	81.7	-1.1	全国	62.0	-3.0
		本県	80.6		本県	59.0	
	算数	全国	82.1	+1.1	全国	63.6	-1.5
		本県	83.2		本県	62.1	
中学校	国語	全国	81.6	+0.6	全国	72.0	+1.0
		本県	82.2		本県	73.0	
	数学	全国	71.9	+1.7	全国	60.6	+1.8
		本県	73.6		本県	62.4	

(2) 課題等

【小学校】

<国語>

登場人物の心情についての読み取ったり、効率よくメモをとったりすることが課題である。

筆者の主張の根拠を正しく読み取ること、情報を取り出し表現様式に即してまとめることに課題がある。

相手や場面に応じた話し方、敬意表現に課題がある。

<算数>

知識・技能面については、概ね良好な結果である。

筋道をたてて考えることや百分率の活用、根拠を明らかにして説明することなど、活用に関する事項に課題がある。

【中学校】

<国語>

全調査事項とも概ね良好な結果である。

手紙に関する問題や文脈に即した漢字の読み書きに課題がある。

複数の資料を比較して、自分の考えをまとめることに課題がある。

<数学>

全調査事項とも全国平均を上回っているが、基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付けさせる必要がある。

複数の情報から必要な情報を取り出して処理することに課題がある。

事象の結果だけでなく、その理由を説明することに課題がある。

3 指導改善のポイント

【小学校】

<国 語>

表現や叙述と関係づけながら人物の心情を読み取ることについての指導の充実

重要な情報や中心となる内容を意識しながら聞き、メモをとる段階で見出しをつけたり、要約したりすることについての指導の充実

文章を要約し、客観的な情報を取り入れてさまざま表現様式にあわせて文章を書くことについての指導の充実

<算 数>

百分率等を活用する割引等の問題を、複数の条件の下で求めていく学習活動の設定と指導の充実

事象の結果だけでなく、結果に至った過程を根拠を基にして説明する学習活動の設定と指導の充実

【中学校】

<国 語>

手紙の書き方についての指導の充実

単なる漢字の書き取りだけでなく、文脈に即した漢字の読み書きについての指導の充実

相手に自分の考えを伝えるために集めた複数の資料を比較し、それらを活用して自分の考えをまとめる学習活動の設定

<数 学>

リーグ戦の試合数を求めたり、与えられた条件の組み合わせを考えたりするなど、複数の情報から課題を解決するのに必要な情報を取り出して、見通しを持って処理することについての指導の充実

事象の結果だけでなく、その理由を分かりやすく説明することについての指導の充実

4 県立中学校の結果等

校種	教科	A 問題 (知識)		差	B 問題 (活用)		差
中学校	国語	全国	8 1 . 6	+12.1	全国	7 2 . 0	+21.0
		県中	9 3 . 7		県中	9 3 . 0	
	数学	全国	7 1 . 9	+25.2	全国	6 0 . 6	+30.0
		県中	9 7 . 1		県中	9 0 . 6	

(資料)

小学6年生・中学3年生の生活習慣等の調査結果
(全国学力・学習状況調査 質問紙調査からの抜粋)

	調査項目	小学校6年生		差	中学校3年生		差
		全国	本県		全国	本県	
1	毎日朝食を摂取	全国	86.3	+ 1.7	全国	80.5	+ 5.0
		本県	88.0		本県	85.5	
2	10時までに就寝(小学校)	全国	42.1	+ 1.0	全国	69.8	+ 6.5
	12時までに就寝(中学校)	本県	43.1		本県	76.3	
3	朝7時前に起床	全国	74.5	+ 10.4	全国	63.9	+ 6.7
		本県	84.9		本県	70.6	
4	授業以外に1~2時間以上の学習をしている(月~金)	全国	57.9	- 0.1	全国	65.0	+ 0.1
		本県	57.8		本県	65.1	
5	学校以外での30分以上読書時間(月~金)	全国	39.2	- 0.6	全国	29.7	+ 3.0
		本県	38.6		本県	32.7	
6	学習塾(家庭教師を含む)で勉強している	全国	44.9	- 11.0	全国	59.8	- 8.0
		本県	33.9		本県	51.8	
7	テレビやビデオ、DVDを2時間以上見ている	全国	60.0	+ 3.7	全国	60.8	+ 0.6
		本県	63.7		本県	61.4	
8	テレビゲームやインターネットを2時間以上使用する	全国	20.0	- 2.8	全国	23.1	- 5.7
		本県	17.2		本県	17.4	

1 教科について

小学校国語

昨年度の課題

長崎県基礎学力調査から
 ・段落相互の関係をとらえて文章を読むことは、約5割の児童ができていない。
 ・同訓異字や日ごろあまり使用されない漢字を書くことについて課題がみられる。

改善状況

全国学力調査から
 ・説明文の段落の内容をとらえることは8割程度できている。
 ・文脈に合わせて漢字を正しく書くことは7割程度できている。

2 課題及び指導改善

結果

主として「知識」に関する調査
 全国正答率 81.7%
 県正答率 80.6%

主として「活用」に関する調査
 全国正答率 62.0%
 県正答率 59.0%

質問紙調査で良好な回答をした児童（国）

	県全体	（国全体）
・国語が好き	56.5%	（59.6）
・国語の勉強が大切	92.4%	（91.1）
・授業がよく分かる	76.7%	（78.0）
・読書が好きだ	73.9%	（71.3）
・漢字を生活の中で使っている	73.6%	（73.0）
・司会をすることがよくある	30.0%	（28.3）

重点課題

「知識」に関する観点
 ア 表現や叙述に即して正しく読むこと
 イ 話の要点を聞き取り整理すること

「活用」に関する観点
 ウ 筆者の主張の根拠を読み取ること
 エ 情報を取り出し表現様式に即してまとめること

質問紙調査から
 オ 成就感を与える授業づくりをすること
 カ 学んだことを生かす場を設定すること

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

表現や叙述に即して正しく読み取る力をつけるとともに、話の要点を聞き取る力の向上を図る。（知識）
 6年生につけたい具体的な力
 ア 表現や叙述に即して内容を正しく読み取ったり、登場人物の心情をとらえたりすることができる。
 イ 話の要点を聞き取り、効率よくメモをとることができる。

指導の工夫
 ア 言動や心情に関する表現を取り出し、心情の変化をとらえたり、人物どうしのかかわりについて読み取ったりするなど、表現や叙述と関連付けながら読むことを繰り返し指導する。
 ア 文の中での語句の係り方や照応の仕方をおさえたり、省略された主語を補って読んだりしながら、叙述内容を分析し、内容を把握する学習場面を設定する。
 イ 重要な情報や内容を意識しながら聞き、メモをとる段階で見出しをつけたりして、話の内容を効率よく整理しながらメモをとる力をつける。
 イ メモの内容やとり方を評価し合う中で、効率よく整理してメモをとるために必要な知識を理解する学習の場を設定する。

筆者の主張の根拠を正しく読み取ったり、情報を取り出し表現様式に即してまとめたりする力の向上を図る。
 6年生につけたい具体的な力
 ウ 事実と感想、意見の関係をおさえ、事実を裏付ける理由や根拠を正しく読むことができる。
 エ 情報の中から必要な事柄を取り出し、多様な表現様式に即してまとめることができる。

指導の工夫
 ウ 文章に取り上げられている事実が、どのような理由や根拠を基に述べられているかを読み、要約する学習活動を設定する。
 エ 自分の立場を主張していくために、客観的な情報を取材・収集し、新聞記事、パンフレットなど様々な表現様式に合わせて文章を書く学習活動を設定する。
 エ 敬語や敬意表現を適切に使うなど、伝える場面や相手に応じた表現の仕方を身につけさせるための指導の工夫をする。
 「長崎県国語力向上プラン」をふまえ、目標を絞り、学ぶことを明確にして達成感・成就感を味わわせる授業、学んだことを生かす授業を実施する。（質問紙調査から）
 オ 「何がわかったり、できるようになればよいのか」を児童に自覚させ、目標達成に向けた主体的な学習が展開される授業を実施する。
 オ 言語活動を効果的に取り入れたり、意見を整理し時間配分を考えながら話し合い活動の司会を務めさせるなど、日常の言語生活を豊かにする授業を実施する。
 カ 国語科で身に付けたことを他教科等で生かしていけるよう、学校全体での国語力向上に向けた取組を展開する。

平成19年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）

1 教科について

小学校 算数

昨年度の課題

- 長崎県基礎学力調査より
- ・ 三角形の図形の面積を求めることができる。(8割弱)
 - ・ 加法と乗法の混合算の計算ができる。(7割弱)

改善状況

- 全国学力・学習状況調査より
- ・ 三角形や平行四辺形の求積の正答率は9割を超えた。
 - ・ 加法と乗法の混合算の計算の正答率が7割を大きく上回った。

2 今年度の課題及び指導改善

結果

主として「知識」に関する調査
全国正答率 82.1%

県正答率 83.2%

主として「活用」に関する調査
全国正答率 63.2%

県正答率 62.1%

質問紙調査で良好な回答をした児童（国）

	県全体	（国全体）
・ 算数が好き	66.0%	(65.0)
・ 算数の勉強が大切	94.2%	(92.5)
・ 授業がよく分かる	78.5%	(77.1)
・ 解いてみたい	78.3%	(76.1)
・ あきらめず考える	76.8%	(74.7)
・ 生活の中で活用できないか考える	64.5%	(62.3)

重点課題

- 「知識」に関する観点
- ア 円の面積を求めること
 - イ 小数、分数を数直線上に表すこと

- 「活用」に関する観点
- ウ 複数の条件下で課題を解決すること
 - エ 根拠をもって説明すること

質問紙調査から

- オ 繰り返し学習と考える学習をすること
- カ 達成感を与える授業づくりをすること

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

図形の面積を確実に求めることができる力の向上を図る。（「知識」）

6年生につけたい具体的な力

- ア 円の面積の公式を用いて、面積を求めることができる。
- イ 分数と整数、小数の関係を理解し、異分母の分数を同じ数直線に表すことができる。

指導の工夫

- ア 円周と円の面積を同じ円で求め比較する場を設定して、その違いを実感させる。
- ア 公式を理解を確実にするために、用いる公式を確認する活動を繰り返し行う。
- イ 整数や小数を分数に表したり、分数を整数や小数に表したりする活動、数直線上に整数や小数、分数を位置づけ視覚的にとらえさせる学習場面を設定する。
- イ 1を10等分、5等分、2等分した数直線に対応させる学習場面を設定する。

複数の情報の中から、求める解答に応じて必要な情報を取り出すことができる力の向上を図る。（「活用」）

6年生につけたい具体的な力

- ウ 百分率の意味を理解し、複数の条件下において、それを問題解決に用いることができる。
- エ 筋道を立てて根拠をもって説明することができる。

指導の工夫

- ウ 打率や値引き率などのよく耳にする百分率を用いるなどして、学習経験を豊富にする。
- エ 筋道をたてた算数での考え方を指導するとともに「だから」となる」など、根拠を明らかにした説明の仕方を発達段階に応じて数多く経験させ、系統的に指導する。

わかり、できるようにする授業と考えさせ、考え方を広げる授業を仕組む。（質問紙調査から）

- オ 一定の問題数を毎日繰り返し行う学習とそれらを活用して、じっくり考える学習とをバランスよく行う。
- オ 知識に関する授業なのか、活用させるための授業なのかを明確にし、ねらいを絞って行う。
- オ 家庭学習は、知識や技能の定着の課題だけでなく、それを活用する課題を意図的に出題する。
- オ 学習したことが生活の中で活用できる例を意図的に数多く紹介する。
- カ 1単位時間の授業では、答えが分かったことだけでなく、「できたこと」「頑張ったこと」「考えを出し合ったこと」などについて、教師は、励ましと賞賛の言葉をかけ、学ぶ意欲の向上を図る。

平成19年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）

1 教科について

中学校 国語

昨年度の課題

長崎県の基礎学力調査から

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことは、約6割の生徒ができていない。
- ・同音異義語の混同や日ごろあまり使用されない漢字の読み書きについて課題がみられる。

改善状況

全国学力調査から

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことは、8割を超える正答率である。
- ・文脈に即して漢字を正しく読み、書くことは、6割を超える正答率である。

2 今年度の課題及び指導改善

結果

主として「知識」に関する調査

全国正答率	81.7%
県正答率	82.2%

主として「活用」に関する調査

全国正答率	72.0%
県正答率	73.0%

質問紙調査で良好な回答をした生徒（国）

	県全体	（国全体）
・国語が好き	58.0%	（56.8）
・国語の勉強が大切	91.2%	（89.9）
・授業がよく分かる	65.8%	（65.4）
・漢字を生活の中で使っている	58.4%	（58.1）
・授業でよく意見交換をする	45.1%	（39.5）
・「蜘蛛の糸」を読んだことがある	75.1%	（68.2）

重点課題

「知識」に関する観点

ア 漢字を正しく読み書くこと

イ 手紙を書くために必要な知識を身につけること

ウ 文脈上の意味を読み取ること

「活用」に関する観点

エ 複数の資料を比較しながら読み、自分の考えをまとめること

質問紙調査から

オ 成就感を与える授業づくりをすること

カ 学んだことを生かす場を設定すること

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

言語や言語文化に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いる力の向上を図る。

3年生につけたい具体的な力

- ア 文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすることができる。
- イ 手紙を書くために必要な知識を理解し、形式に沿って書くことができる。
- ウ 語句の文脈上の意味を読み取ることができる。

指導の工夫

- ア 漢字を一字一字正確に読み書きするだけでなく、文脈に即して正しく用いる学習活動を取り入れる。
- ア 読んだり書いたりする機会を増やすとともに、国語辞典や漢和辞典を積極的に利用して学習する場を設定する。
- イ 頭語・結語・主文・後付けなどの手紙の形式や時候のあいさつについて理解させ、「総合的な学習の時間」や学校行事との関連を図って、実際に手紙を書かせる活動を設定する。
- ウ 辞書的な意味にとどまらず、その文脈の中でどのような意味をもっているか考えを出させ、話し合う学習活動を設定する。

複数の資料を比較しながら読み、自分の考えをまとめる力の向上を図る（活用）

3年生につけたい具体的な力

- エ 様々な資料の表現の特徴を読み取ることができる。
- エ 様々な種類の文章から必要な情報を読み取ることができる。
- エ 資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や根拠を明確にして書くことができる。

指導の工夫

- エ 複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理し、自分の考えを書いたり発表したりする学習活動を取り入れる。
- エ 新聞記事、広告など、資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の表現に生かしていく学習活動を取り入れる。
- エ 生徒たちの関心が学校図書館に向き、読書に親しむ意欲が高まるよう工夫する。

「長崎県国語力向上プラン」をふまえ、目標を絞り、学ぶことを明確にして達成感・成就感を味わわせる授業、学んだことを生かす授業を実施する。（質問紙調査から）

- オ 目標を絞り、「この力がついた」「このことがわかった」という成就感をもたせて1時間の授業を終わるようにする。
- オ 言語活動を効果的に取り入れたり、文章や資料の読み取りから意見交換をしたり、話し合ったりするなど、日常の言語生活に直接つながる授業を実施する。
- カ 新しく習った漢字を活用して、「総合的な学習の時間」で依頼文や手紙文を書かせたり、学習した漢字を漢和辞典で詳しく調べたりするなど、主体的な学習により語彙の拡充を図る場を設定する。
- カ 国語科で身に付けたことを他教科等で生かしていけるよう、学校全体での国語力向上に向けた取組を展開する。

平成19年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）

1 教科について

中学校 数学

昨年度の課題

- 長崎県基礎学力調査から
- ・分数の計算については6割程度の正答率である。
 - ・1点を通る比例の式を求める問題については、正答率が5割未満である。
 - ・円錐の見取図と展開図の関係を理解していない生徒が5割以上いる。

改善状況

- 全国学力・学習状況調査から
- ・分数の除法については、正答率が8割を超えている。
 - ・比例のグラフから式を求める問題の正答率が7割を超えている。
 - ・円錐の見取図を展開図に置き換える問題で、正答率が9割を超えている。

2 今年度の課題及び指導改善

結果

主として「知識」に関する調査

全国正答率	71.9%
県正答率	73.6%

主として「活用」に関する調査

全国正答率	60.6%
県正答率	62.4%

質問紙調査で良好な回答をした生徒

	県全体	(国全体)
・数学の勉強は好き	54.9%	(51.0%)
・数学の勉強は大切だ	81.4%	(78.8%)
・数学の授業の内容はよくわかる	65.0%	(63.6%)
・普段の生活の中で活用できないか考える	33.5%	(30.7%)
・数学の学習は社会に出たときに役立つ	71.7%	(69.2%)

重点課題

- 「知識」に関する観点
- ア 等式を目的に応じて変形すること
 - イ 立体の体積の量感を実感すること
 - ウ 反比例の関係を式で表すこと
- 「活用」に関する観点
- エ 課題を解決するのに必要な条件を読み取ること
 - オ 根拠をもとに説明すること
- 質問紙調査から
- カ 数学の授業で学習したことを普段の生活の中に活用すること
 - キ 与えられた課題を決められた時間内に処理すること

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

文字式や等式が表していることの意味を理解したり、目的に応じて変形したりする力の向上を図る。（知識）
3年生につけたい具体的な力

- ア 等式の性質を用いて、1つの文字について解くことができる。
- イ 円柱と円錐の体積の関係を公式からだけでなく、量感を伴って理解することができる。
- ウ 反比例の関係を式に表して、 x の値に対応する y の値を求めることができる。

指導の工夫

- ア 等式の変形を形式的に行うだけでなく、三角形の面積の公式を底辺の長さを求める式に変形するなど、具体的な場面で目的に応じて式を変形することを大切にし、式を利用することを感じさせる場を設定する。
- ア 移項の操作を誤った場合の解き方を例示し、移項するときに使われている等式の性質を考えさせる場面を設定する。
- イ 実験や実測を通して体積にかかわる量感を確実に身に付ける場を設定する。
- ウ 反比例について、比例と対比したり、変化と対応の両側面から考えたりするなど、その意味と性質を理解する活動を行う。

課題を解決するために必要な条件を読み取り、活用する力の向上を図る（活用）

3年生につけたい具体的な力

- エ 樹形図や表などを利用して、起こり得るすべての場合の数を求めることができる。
- エ 起こり得るすべての場合から、条件に合う組み合わせを選択できる。
- オ 一次関数になることを式や表、グラフから説明することができる。

指導の工夫

- エ 実生活における情報の選択や判断に、数学的な知識や技能などを活用できるようにする学習活動を取り入れる。
- エ 与えられた問題文から、課題を解決するのに必要な数量や関係を表す言葉を読み取るための学習活動を取り入れる。
- オ ことがらが成り立つ理由を説明するのに、言葉だけでなく記号や式など数学的な表現を用いて説明するよさが理解できるような学習活動を取り入れる。
- オ 問題の条件を変えるなどして、新たな課題を解決するのに既習の方法が活用できるかどうか考えさせる場面を設定する。

用語の意味や数式の計算など、知識・技能を確実に習得させ、処理を速く正確にできるようにする授業と実験や調査結果を数学的な表現や考え方で処理する方法を考えさせる授業を実施する（質問紙調査）

- カ 授業に実験や調査活動を取り入れ、その結果を数式やグラフに表したりすることから数学の有用性を感じ得る学習活動を取り入れる。
- キ 練習問題や小テストなどの時間を短縮していくなど、「できる」だけでなく「よりはやくできる」ことを賞賛する場面を設定する。